

令和5年度 自己評価報告書

令和6年3月
岐阜県立多治見看護専門学校

1 本校の概要・・・資料1～3

本校は、以下の教育理念の下、学生教育を実施している。

「生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。」

2 令和5年度 組織目標及び実績・・・資料4・5

(1) 教育環境の整備

○安全安心な学習環境の整備

- ・学生にとって、学習環境や学校生活がより良くなるよう、意見箱以外にLogo フォームで相談できるような環境を整えた。学生からは、計12件の意見があり、倫理委員会で検討し、すべての意見に対応した。
- ・ストレスチェックを全学生に実施した。結果はスクールカウンセラーが分析し、ストレス度の高い学生については担任が面談した。
- ・学生には年間を通して、学生生活実態調査、ハラスメント調査、睡眠に関する調査を実施し、その都度学生の意見を聞き、改善に繋げた。特に実習記録については、実習の目的・目標と照らしあわせ見直した。
- ・昨年度作成した職員用の防災マニュアルを見直し、実習中の具体的な教員の動きなど対応方法を一部修正した。また防災マニュアルを活用した防災訓練も実施することができた。
- ・休養室をバリアフリー化し、壁紙を張り替え、カーテンを変えるなどリフォームを行った。
- ・ワクチン接種会場より、学生用の冷蔵庫や電子レンジ、電気スタンドなどをもらい受け設置した。
- ・学則・細則、ハラスメント規程、懲戒規程、倫理委員会規程、他を県立3校で協議し整えた。

○ICT教育に関する環境の整備

- ・タブレットを使用した授業は年間162回、コロナ感染症などで自宅待機の学生を対象としたリモート講義を年間122回実施した。
- ・10月には県立3校がTeamsで繋がり、ハラスメント研修を実施した。
- ・本課と連携し、校務支援システム導入に向けての予算資料を作成し、次年度の導入が決定した。
- ・授業アンケート、実習アンケート、その他各種アンケート、さらに相談窓口など、様々な場面でLogo フォームを活用することができた。
- ・3月に睦館のWi-fi工事を施工し、本館・睦館ともにICT教育のできる学習環境を整えた。

(2) 優秀な学生の確保

- ・高校訪問は、受験者数の多い10校に対して3年ぶりに直接訪問を実施した。その他東濃地域・中濃地域、12市町の17校に電話を行い当校のPRをした。また、県内の高校54校に入学案内を郵送した。
- ・オープンキャンパスはリモートと対面を実施した。リモート参加者の中で希望者に対し対面にて、学校案内等実施し、延べ171名の参加があった。昨年度比103%と微増した。
- ・1年生による母校訪問は5校8名であった。高校や業者が主催する進学ガイダンスには16回参加した。
- ・入学案内は、表紙を変更しイメージアップを図った。
- ・入学式、誓心式、卒業式などの行事をおりベネットワークや新聞で取り上げてもらいアピールができた。
- ・以上の取り組みにより、特別入試の受験者は増え、前年度比111.5%の受験者を確保することができた。一方で一般入試は、県外者と既卒者の減少が目立ち、前年度比82.5%に留まった。

(3) 学校運営評価会議での意見の活用

- ・令和5年7月27日第1回学校運営評価会議を開催、外部委員5名に評価をいただいた。
- ・令和5年9月に第2回学校運営評価会議を書面で開催し、結果をホームページで公表した。

- (4) 予算執行・学生生活支援(総務課)
- ・限られた予算の中で、ノートパソコン2台(27万)、腎注くん(20万)、ワゴン車(8万)、導尿浣腸モデル(8万)、ワイヤレスアンプ(8万)を購入した。さらに倉庫内の不用品の廃棄をすることができた。
 - ・日本学生支援機構奨学金11名の事務手続きを実施した。
 - ・各種証明書等の発行事務を迅速かつ適正に実施した。
- (5) 新カリキュラムの適正な運用
- ・新カリキュラムも2年目となったが、トラブルもなく進めることができた。
 - ・新カリキュラム評価委員会を7回実施した。1、2年次の終了科目の時期・進度・内容等について評価し、次年度の計画に繋げた。さらに3年次の授業進度について検討し、実施可能な教育課程の作成に繋げることができた。
- (6) 教員の教育活動の充実、看護実践能力の維持・向上
- ・授業研究委員会で、教員の教育力向上に向けて取り組んだ。委員会を8回実施し、今年度より開始となった、臨床判断能力の授業内容を検討し、東海北陸ブロックの研修会で発表し助言を受けることができた。
 - ・全教員が授業参観を1回ずつ実施した。リフレクションで他教員から助言を受け、今後に繋がる機会となった。
 - ・学会・研修会に参加し、伝達講習を実施した。
 - ・短期研修は、3月に衛生専門学校で2名実施した。次年度も転勤者・新入者がいるため研修を計画する。
 - ・業務改善では、業務手順の見直しを実施し、全教員で再作成することができた。
 - ・校長室の扉がシロアリ被害にあい、修繕を行った。

3 学校評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校経営

資料11～12

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。 ・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。 ・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。 ・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ問題解決に当たっているか。 	<p>4.6 (R4年度4.5)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・組織目標は職員会議で周知し、全職員で連携しながら問題解決にあたることができた。
- ・**学校評価**を9月と2月の2回実施した。評価結果は職員会議で周知し、中間評価結果は後期の学校運営に繋げ、2月の評価結果を次年度の学校運営目標に繋げた。また**学生の学校評価**、外部委員による学校関係者評価を実施し、職員会議で周知するとともに、その結果を学校運営計画に繋げた。また必要時はミーティングや各種委員会で情報共有をして問題解決に努めている。
- ・学校評価結果はホームページで公表した。

2) 学科運営

資料 13～18

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。 ・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。 ・授業計画(シラバス)が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。 ・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。 ・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。 ・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。 ・実習指導者と教員(実習指導教員)の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。 ・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。 ・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ・実習時のインシデント・アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。 ・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。 	4. 2 (R4 年度 4.1)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・卒業生と卒業年次生に**カリキュラム評価**を実施し、卒業時の到達目標を分析した。
- ・**卒業時の実践能力に関する調査**を、令和2年度から4年度卒業生及び就職先の病棟師長を対象にアンケート調査を実施した。
- ・新カリキュラム評価委員会を7回実施した。1、2年次の科目の進捗・内容等について評価し、次年度の計画に繋げた。さらに次年度実施予定の3年生の進捗及び教育内容について検討し、実施可能な教育課程の作成に繋げることができた。
- ・授業計画(シラバス)は、シラバス委員会が中心となり、学生に聞き取り調査を行うなど学生が使いやすいように修正している。
- ・授業内容や方法については、科目終了後に学生による**授業評価**を実施している。さらに技術演習については、演習終了ごとに教員間で演習の方法や学生の反応などをリフレクションしている。それらの結果を踏まえた上で**総括**を実施している。総括をもとに教務会で検討し、次年度の授業内容や指導方法の改善に繋げている。
- ・学生が単位取得できるように、年度初めにガイダンスを実施し、一年間のスケジュールや取得すべき単位数、科目を説明している。
- ・コロナ関連により自宅待機となった学生には、リモート講義の聴講により単位取得の支援を行った。リモート講義は122回実施し、学生も教員も混乱なく対応できている。2年生の原級留置学生1名は、旧カリキュラムと新カリキュラムの学習内容を履修する必要があり、2年生に在籍しながら1年生の授業も履修しなければならない。学生が混乱しないよう、毎月履修科目を確認しながら進め令和5年度修得すべき単位はすべて履修できた。
- ・科目の開始時には科目目標と内容、評価について説明をしている。また、講義で未修得単位のある学生については、年度末に保護者面談を行い、次年度、計画的に単位が修得できるよう説明した。また、随時、個別指導を実施し単位取得に向けた支援を行っている。実習で未修得単位のある学生については、実習予定の1か月前から事例を用いた看護過程の展開や援助技術を実施させ、不足部分については指導を繰り返すなど、密に支援している。
- ・主たる実習施設とは年間5回の**実習連絡会議**を対面にて行った。9月と1月の実習連絡会議では、臨床側と学

校とで小グループを作り、学生指導において心がけていることや困りごとをざっくばらんに意見交換する機会をもった。また、11月には新カリキュラムから導入される臨床判断能力の実習に向けて、学生の記録を用いたグループワークによる学習会を行った。実際の記録を見ることで、学生の思考のレベルを知り、指導方法についてイメージ化を図ることができた。その他41か所の実習施設とは、実習開始前と終了後の2回調整会議を実施し、実習指導者と連携をとっている。学生が効果的に学べるよう今後も調整していく。

- ・実習指導者が不在時の学生の実習の仕方についてマニュアル化した。今後、病棟と調整しながら学生が実習中に困ることがないようにしていく。
- ・臨床判断能力の育成については、今年度マトリックスを作成し、1年次から段階的に学ぶため、関連する科目の学習内容を明確にした。1年次では対象の変化に気づくことができることを到達目標としており、実習では、患者の日常生活の変化に気づくため、毎日気づきシートを記入した。学内演習では、フィジカルアセスメント、呼吸・循環を整える技術、臨床看護総論などで模擬患者の変化に気づき、その時の自己の関わりを振り返ることを繰り返し行った。2年次では、対象の症状の変化に気づき、必要な看護を学ばせることを目標としている。臨地実習での看護師の援助を見学後、その援助や関わり場面について直接看護師から臨床判断を聞くことで、学生は患者を見る視点やアセスメントの幅広さなど臨床看護師と学生との違いを実感するとともに、看護師としての見方について、多面的に学ぶことができた。また、毎日気づきシートに気づきを記入することで、自然と患者に目が向き、日々の変化に気づくことができていた。この学びを3年次につなげていきたい。
- ・地域・在宅看護論では、1年次より地域と生活者について理解を深めた。2年次は地域で生活する生活者が疾患や障害を抱え生活することの影響を学んだ。さらに在宅療養移行期間に焦点をあて、紙上事例を用いて施設内看護から在宅看護への移行で起こりうることを予測し必要な準備や支援についてグループワークを行った。1年次から生活者として対象を捉えた学習をしているため、対象者の生活を具体的にイメージしたワークができ、学生間で活発な意見交換ができた。
- ・臨地実習の評価については、令和5年度より学内で評価調整会議を行ったうえで、学生個々の評価を判定している。そこで、評価に迷っている項目を実習担当教員全員で検討することで、評価の平準化を図った。
- ・実習時のインシデント・アクシデント対策について、実習前に**個人情報保護・安全管理についての指導計画**に基づき授業を実施した。各学年の学習進度に合わせた内容を実施した。また、実習指導学習会・インシデント学習会を年間2回開催し学生指導に活かすことができた。引き続き実施していく。
- ・今年度も、各実習終了後に実習中の自己を振り返る機会を設けた。実習中はみえていなかった自分自身を客観的に振り返り、自己の発見と成長した自分を認める機会となっている。このことは、自己を肯定的に受け止めることにつながるため今後も継続していく。

3) 入学・卒業対策

資料 19～25

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの応募者を確保することに努めているか。 ・国家試験の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。 ・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。 ・卒業生の支援を行っているか。 ・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。 	<p>4. 1 (R4年度 4.0)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・優秀な人材確保に関する事業として、高校や業者が主催する**進学ガイダンス**の参加(16回)、1年生の**母校訪問**(5校8名)を実施し、当校の魅力を伝えた。高校訪問は、受験者数の多い10校に対して3年ぶりに直接訪問を実施した。その他東濃地域・中濃地域、12市町の17校に電話を行い当校のPRをした。また、県内の高校54校に入学案内を郵送した。
- ・オープンキャンパスはリモートと対面で実施した。リモート参加者の希望者が直接学校に来校し、学校案内や

説明を行い、延べ171名の参加があった。昨年度比103%と微増した。

- ・入学案内は、表紙を変更しイメージアップを図った。
- ・入学式、誓心式、卒業式などの行事を、おりべネットワークや新聞で取り上げてもらいアピールができた。
- ・以上の取り組みにより、特別入試の受験者は増え、前年度比111.5%の受験者を確保することができた。一方で一般入試は、県外者と既卒者の減少が目立ち、前年度比82.5%に留まった。
- ・**入学生にアンケート**を実施し、それらの情報を募集方法等に活かすことができた。
- ・入学案内に、アドミッションポリシー(本校の求める学生像)を記載し、機会あるごとにアドミッションポリシーを説明することで、本校が求める入学生の確保に努めている。
- ・国家試験合格に向けて、3年次には全教員による少人数担当制の指導を実施し、学習面だけでなく精神面での支援を行っている。学生が自分のペースで学習できるよう国家試験2週間前より自宅研修とした。今年度も国家試験に全員合格することができた。
- ・入学時の学力の低下は著明のため、1年生から各クラス国家試験対策委員を作り、委員を中心に学習を進めている。また、1年次から業者模試を行い、国家試験に出題する問題の傾向を知りながら学習する機会を設けている。
- ・卒業生の**主な進路**は、例年県内の東濃及び中濃圏域の医療機関への就職が大部分を占めている。今年度は地元で就職をする学生がおり、岐阜地区に就職する学生もいた。進学は、保健学科1名、助産学科3名であった。
- ・卒業生の支援として、**卒業生交流会**(ホームカミングデイ)を8月に対面で実施した。21名(64.4%)と昨年度より大幅に参加者が増えた。卒業生同士、また教員と語ることで、情報交換、リフレッシュの機会となっていた。昨年に引き続きメールでのお知らせと、就職先への働きかけ、卒業時に卒業生交流会への参加を促す声掛けをしたことが参加者増加に繋がったと考える。
- ・県内就業に関しては、進学ガイダンスなど入学希望者への説明、入学時ガイダンス、個別の就業相談時にも指導・助言を行った。また、1、2年生を対象に県立多治見病院の就職説明会を実施した。その結果、令和5年度94.4%が県内就業であった。年々就職試験が早くなっているため、1年次から長期休暇にはインターシップへの参加を呼びかけ、2年生には2年次修了時には就職先を決めるように促した。
- ・1年生を対象に、1月に5施設の卒業生を迎えて、**先輩と語る会**を開催した。今年度は保健師として保健所で働いている卒業生も招き、看護師以外のキャリアを考える機会にもなった。
- ・3年生には模擬面接を行い、採用面接者の意図を理解し、的確に対応できる能力を養うように努めた。

4) 学生生活への支援

資料26～32

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。 ・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。 ・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。 ・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。 	<p>3.8 (R4年度3.6)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・学生には年間を通して学生生活実態調査、ハラスメント調査、睡眠に関する調査、ストレスチェックを実施した。また、入学生を対象に入学前調査を実施した。
- ・**学生生活実態調査**の集計結果は学校評価委員会で共有し、結果を学生の生活・学習などの支援に活用している。また学生の意見で至急対応が必要なものについては、全職員で共有し改善に向けた取り組みをしている。特に実習記録については、昨年度実習記録検討会を設けた。新カリキュラムの目的・目標と照らし合わせながら、一つ一つの記録用紙の意味を確認し、検討を繰り返した。今後も引き続き検討していく。
- ・**ハラスメント調査**は9月と2月の2回実施した。
- ・**睡眠に関する調査**は学生生活実態調査内での聞き取りと11月に睡眠に関する調査の計2回実施した。実習中

の睡眠時間は、4時間以下が77%であり、その約半数がやるべき実習記録を記載していたと回答している。令和5年度下半期より実習記録量を大幅に削減しているが、睡眠時間は少ない。今後、実習科目による睡眠時間の差や実習期間中の睡眠時間の変動等についても調査していく。

- ・**ストレスチェック**は11月に実施した。結果はスクールカウンセラー（SC）が分析し、ストレス度の高い学生については担任が面談し、面談結果をSCと共有した。12月には、SCが「学生相談室からのお便り」を作成し、ストレスチェックの全体結果や結果が高い人へのアドバイス、カウンセリングの案内などを全学生に配布した。
- ・**入学前調査**は、令和6年度入学が確定した入学生及び保護者を対象に、本校に入学するにあたっての心配事等について調査し、希望者には個別面談できるようにした。その結果、1名が個別相談を希望し対応した。
- ・学生の定期健康診断の結果を校医に報告し、要受診学生への指導と結果の把握に努めた。日々の学校生活では教員による学生の健康管理を行い、必要時は校医と連携し専門医への受診等を助言している。
- ・コロナ感染症対策として、学生、職員ともに1日4回の検温結果を、毎朝Logoフォームに入力し健康チェックを行っている。臨地実習中は、実習病棟毎に控室をつくり、少人数で休憩をとり、病棟間の感染を防ぐよう取り組んだ。その結果、学生間での感染はなかった。一方、家庭内感染などのケースも増え、判断に困るケースは、多治見病院の看護部を通して、感染管理ナースに相談し、学生や職員の行動を決定することで、安全確保に努めた。
- ・小児感染症の予防接種は、抗体価の結果に基づき、計画的に接種するよう指導した。
- ・**休学者・退学者**については、退学者5名、休学者5名と1年生が多かった。1年生の退学者には復学者3名が含まれ、復学したものの、再度自分の進路に迷いを生じ退学に至った。1年生の休学5名中3名が退学、2年生の休学2名は2名とも退学した。いずれの理由も進路変更である。
- ・心の不安定な学生が増えており、担任・副担任を中心に学生面談・学生指導を行っている。また、月1～2回**スクールカウンセラーによる相談日**を設け、今年度は延べ20名と昨年の倍の人数となった。特定の学生が繰り返し利用する傾向にあり、SCと情報共有しながら学生支援を行っている。必要時は保護者面談、保護者への電話連絡などで行い学生の状況説明と支援要請を行った。
- ・日本学生支援機構等が運営する**奨学金**制度（給付・貸与）を紹介し、希望者に対しては申請書の作成支援や運営主体への推薦を行った。また国の高等教育修学支援制度に基づき、修学金の支援に加えて、3名に対して授業料の減免を行っている。それ以外に市町村の修学資金や医療機関の修学資金を受けている学生が19名いる。
- ・今年度の成績優秀者は1名であり、卒業時に**表彰**を行った。
- ・学生会の部活動については、学生の意向を確認したところ、ほとんどの学生がサークル活動を希望していない結果となった。今後も学生の意向を確認しながら自発的な取組への支援をしていく。

5) 教職員の育成

資料 33～38

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。 ・学会又は研修会に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか。 ・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。 ・教員の授業を他の教員が参観・講評できる体制を整えているか。 ・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。 	<p>3. 9 (R4年度3.8)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・職員会議を活用し、ハラスメント防止・セキュリティ対策などの職場内研修を行った。また**学会・研修に参加**した教員は、教務会で**伝達講習を実施**している。
- ・教員間で、学生への指導について学習会を行った。教員が考える指導の必要性とその時に学生が考えたこと、どのように指導することがより良いかなどを検討した。教員サイドの見方のみではなく、学生視点からも考え

ることで、学生の思いを受け止めた対応など具体的な関わり方について意見交換することができた。また、学内で発生したヒヤリハットについて学習会を行った。変化する学生の傾向を客観視することで、学生への指示の出し方など学生に合わせた指導をしていく必要性を共通認識した。

- 臨床実務研修については、衛生専門学校歯科衛生学科にて2名の教員が行った。次年度、同校と地域・在宅看護論で多職種連携で協働学習の演習を行う。研修では、歯科衛生学科のカリキュラムや学生のレディネスなどを知るとともに、歯科衛生学科教員と教材検討を行った。次年度実施に向けて内容を詰めていく。
 - 1年目教員に対して、新人支援プログラムに基づいて、プリセプターを中心に計画的に支援を行った。年間3回評価を行い、業務遂行状況、業務を行う上での困りごと等確認すると共に、次の目標を明確にできるようにした。また、教職員間で情報共有し、全職員で育てていくよう支援している。
 - キャリアラダー**で、校長・教務主任と共に現在の教員に必要な能力についての達成状況を確認し、各自目標を明確にすることができた。
 - 全教員が**授業参観**を実施、リフレクションをすることで、授業内容や方法の改善に繋がった。12月に実施した「成人看護学VI 臨床判断能力の基礎」では、岐阜県看護教育連絡協議会事業の一環として、県内の他学校の教員4名も参加して授業参観を行った。他校教員から意見を頂き大変参考になった。また、授業案作成にむけて教員間で授業の方法や進め方について相談しあう場面があった。授業を担当した教員からは、自信をもって授業が実施できたとの意見があり、次年度も継続していく。また、授業参観では、タブレットを用いた授業も行われた。事例に必要な看護をグループで検討し、患者役に援助を実施する授業では、援助場面を撮影しリフレクションで使用した。援助場面を一つ一つ確認しながら振り返ることで、自分の立ち位置や患者の支え方、患者の表情や姿勢など再確認でき、効果的な学習ができていた。さらに、撮影の仕方によって、振り返りの質が異なることがわかり、撮影方法についても指示すると効果的であるなど意見交換された。
 - 授業研究委員会**を8回実施し、新カリキュラムで新たに実施する、成人看護学各論VI 臨床判断能力について授業計画を行った。さらに、東海北陸地区ブロック研修会で授業計画を発表し、講師からの助言を受け、具体的な授業作成につなげることができた。
 - 実習要綱委員会**を8回実施し、各実習の評価基準の見直しやヒヤリハット学習会の計画、運営を行った。また、学生の記録を用いた「好事例」「困難事例」をもとに具体的な指導方法を検討する学習会を企画・運営した。
- 以上のように、主体性を促す授業・ICTを活用した授業を構築し教員の教育力向上に向けて取り組んだ。

6) 管理運営・財政

資料 39～40

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算計画・年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。 ・ 学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。 ・ 災害などの非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。 ・ 学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。 	<p>4. 3 (R4 年度 4.3)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ 年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。
- ・ 学校が保有する個人情報については、「岐阜県情報セキュリティ対策基準」に従い管理している。
- ・ 個人情報保護は、学生へ繰り返しの指導を行うとともに、実習の記録やメモ帳の管理については、詳細なルールを決め、それに従い管理している。現在問題となっているソーシャルメディア利用の注意点については、学校生活案内に明記し、年度初めのガイダンス、各実習前のオリエンテーション、解剖見学前のオリエンテーションなど、機会あるごとに指導を行っている。各実習前に個人情報保護、医療安全の意識を高める取り組みを

計画し実施した。

- ・**ハラスメント調査**を9月と2月に2回実施した。「自分へのハラスメント」は、9月は3名、2月は4名であった。また、「他者へのハラスメント」を見た人は9月は3名、2月は1名であった。いずれも学生指導において、自己を否定されたことや理不尽な指導、他学生との対応の違いがハラスメントの理由であった。個別に内容を聞くことを学生が求めているため個々への対応には限界があるが、学生面談で同様の訴えがあった。ゆっくりに学生の思いを聴取したところ、先生も一生懸命指導してくれていると学生も理解を示してくれた。教員が良かれと思って指導したことがハラスメントと受け止められることもある。教員間で、学生に指導の意図を説明することが大切であるとともに学生への関りかたについて検討できた。
- ・学生の防災意識を高めるよう、年度初めに防災訓練・防災に関する講話を実施した。昨年度作成した防災マニュアルを用いて行い、教員間で周知徹底する機会となり、さらに一部見直しを行った。3年ぶりに3学年全員でシェイクアウト訓練、メールによる安否確認訓練、避難訓練を行った。
- ・学生の意見・要望を聞くために2か所に意見箱の設置している。また、入学時アンケート、学生生活実態調査、学生による学校評価を実施し、学生の意見・要望を確認している。学生の意見については倫理委員会、運営会議、学校評価委員会において対応を検討し、速やかに対応した。
- ・**意見箱など**に投函された意見は、14件であった。学校生活を快適に過ごすための環境や教育に関する内容であった。看護過程の記録については、他者のものを写した学生についての対応を求める意見が寄せられた。各学生がこの行為について、写す側、写される側の気持ちを知ることも大切であると考え事例を用いて学習する機会とした。異なる立場にある者の気持ちを考える良い機会となった。また、実習評価については、教員間で評価が異なるとの意見があった。この意見を受け、教務主任または実習調整者が病棟をラウンドし各学生の到達度を確認すること、実習終了後に学内で評価検討会を行い、各学生の評価を検討する機会を設け評価の平準化を図った。環境面については、少ない予算で改善できるよう方法を模索しながら学習環境を整えている。

7) 施設設備

資料 41～43

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。 ・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。 ・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。 ・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。 ・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。 	<p style="text-align: center;">3. 4 (R4 年度 3. 4)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・トイレについては、数が少なく、洋式便器は各階1か所しかないことで、学生からの改善要望も多い。現在、改修工事の予算化にむけて県と具体的な調整をしている。
- ・令和5年度の **ICT 活用実績**は、講義で計162回実施した。タブレットを用いた調べ学習やプレゼンテーション資料の作成、技術を動画撮影しリフレクションするなど、使用用途が増えている。またリモート講義は今年度122回実施し、学生、教員ともにもスムーズに使用できている。
- ・Logo フォームを活用したアンケートも多く取り入れることができおり、集計する教員の負担の軽減につながった。
- ・10月には県立3校が Teams で繋がり、全学生がハラスメント研修を受けることができた。
- ・本課と連携し、校務支援システム導入に向けての予算資料を作成し、次年度の導入が決定した。
- ・3月に睦館のWi-fi 工事を施工し、本館・睦館ともに ICT 教育のできる学習環境を整えた。

- ・**教育環境の整備**は、限られた予算の中で、ノートパソコン2台(27万)、腎注くん(20万)、ワゴン車(8万)、導尿浣腸モデル(8万)、ワイヤレスアンプ(8万)を購入した。さらに倉庫内の不用品の廃棄をすることができた。
- ・休養室は、壁紙がはがれ、段差があり車いすでの入室ができなかったが、改修により、床をバリアフリー化し、壁紙を張り替え、カーテンを変えるなどリフォームを行い学生が快適に休養できる環境を整えた。
- ・ワクチン接種会場より、学生用の冷蔵庫や電子レンジ、電気スタンドなどをもらい受けた。冷蔵庫は3階の水場に設置した。電子レンジは2階に教室のある学生が使えるよう、電子レンジを置くスペースを作り設置した。電気スタンドは、図書室や視聴覚室の個別学習スペースに設置した。

8) 広報・社会貢献、地域活動

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。 ・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。 	<p>3.0 (R4年度3.0)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ホームページについては、オープンキャンパスや募集要項を掲載した。
- ・入学式、誓心式、卒業式などの行事をおりベネットワークや新聞で取り上げてもらいアピールができた。
- ・地域活動としては、多治見社会福祉協議会の福祉祭に3年生がボランティアで参加した。
- ・生涯学習入門Iで、学生自身がボランティアを行っている。自分でボランティアを調べ、応募し、実際ボランティア活動を行い、学んだ成果について共有している。この学びを通して、社会貢献への関心を高めるとともに、地域の人との交流する機会にしたい。

4 総合的な評価

本年度に定めた組織目標は、本報告書に記載したとおり概ね実施できており、目標達成できていると評価する。また、評価項目の達成及び取り組み状況は、8カテゴリー中、5カテゴリーは評点がアップした。また平均評点も0.1点アップしたことから、適切に実施していると評価する。

— 以上 —